

き れ い な 空 気 よ い 水 を 求 め て

会報 かんきょう

Vol.17



photo : 「世界遺産 白川郷(岐阜県)」 スター精密㈱ 小山勝己

県内優良施設見学研修会

株エムエスケイ

矢崎エナジーシステム㈱ 浜松工場 …1

環境セミナー …2

環境法令基礎研修 …3

かんきょうにゆーす …5



この会報誌は古紙配合率 100%、
白色度 70% の再生紙を使用してい
ます。

「県内優良施設見学研修会」に参加して

■DATA■

平成24年11月15日(木)

①株エムエスケイ ②矢崎エナジーシステム株 浜松工場

2012年11月15日に毎年恒例行事となった「優良施設見学研修会」が、会員企業21社と静岡県環境保全課、静岡県環境保全推進協会事務局の合わせて26名が参加のもと、実施されました。当日は、日頃から環境に配慮された事業を展開されている、「株エムエスケイ」様と「矢崎エナジーシステム(株)」様を熱心に見学させて頂きました。

①株エムエスケイ

1. 会社概要

株エムエスケイは、1986年に養鶏・農事業として設立された会社であり、1992年より産業廃棄物処理業としての業務を行っています。

企業理念としては、「未来の子供たちに豊かな自然を残し、環境を守ること。」という私たち大人に与えられた未来への責任を果たすべく、日々大量に発生している廃棄物を削減するとともに、廃棄物の再資源を推進されています。

2. 環境への取り組み内容

廃棄物のリサイクルについては、起業当時の農事業での経験を活かし、地域密着の資源循環システムの確立を目的に、肥料・園芸資材・温室等で燃原料として使用されるRPF燃料化などに取組まれています。

近年の取組みとしては、2012年8月に混合廃棄物処理量が967t/日という、県下最大級のリサイクルファクトリーの建設が行われ、廃プラスチック・がれき・蛍光灯などの多品目に亘り、選別・破碎・圧縮・RPF化などが行われています。

3. 感想

廃棄物処理業者として、多品目を扱われており、積極的にリサイクル化に取り組まれています。また、農事業での経験を活かし、地域農家と密接に連携されていると感じました。

業態として、廃棄物処理業とは反する飲食業で、同社が経営するレストラン雲雲雲龍龍龍(たいと)にて、昼食に食べたグランプリ受賞経験をもつ浜松餃子は大変美味しかったです。

②矢崎エナジーシステム(株) 浜松工場

1. 会社概要

矢崎エナジーシステム(株)は、2012年6月に矢崎グループの中核を成す矢崎総業(株)より電線やガス機器などの生活環境機器部門の分社により設立された会社であり、(空調)(太陽熱)(木質バイオマス)を三本柱として活動されています。今回見学した浜松工場では、「吸収式冷温水機」「太陽熱温水器」「太陽熱集熱器」の製造が行われており、「環境/安全を最優先とした企業活動を行い、豊かな未来社会実現に貢献する。」という矢崎グループの経営基本方針に則り、コンプライアンスを最優先として、地球温暖化防止・資源の有効利用・国内及び海外法規に関する化学物

質管理等の活動が工場内にて実施されています。

2. 環境への取り組み内容

浜松工場では、工場内にて各種環境活動を実施されていますが、工場内での活動に留まらず、その製品群を通じた環境配慮についても着目しています。

特に地球温暖化防止を目的として、CO₂ガス排出量削減に向けた太陽熱を利用するソーラー関連製品の開発・製造が行われており、「地球にやさしい技術」「ONLY ONE EARTH」という合言葉をもとに、その合言葉に沿った活動が実践されていました。

3. 感想

工場内での環境活動、製品を通じた環境活動、森林保全活動、社外不法投棄廃棄物の回収作業、工場周辺の清掃活動など幅広い環境活動が実践されており、全従業員の一人一人が環境意識を強くもって活動されていると感じました。

全体を通じての感想

今回見学させて頂いた「株エムエスケイ」様、「矢崎エナジーシステム(株) 浜松工場」様ともに高い環境意識を持って活動されていると感じました。また、環境配慮に関しては、企業経営に直結する内容であり、避けては通れないものであることを再認識することが出来ました。

レポート：日立アプライアンス(株)清水事業所 山本健二



(株)エムエスケイ



矢崎エナジーシステム(株)
浜松工場



環境セミナー

Thursday, March 7, 2013

森は海の恋人 人の心に木を植える

講師 NPO法人 森は海の恋人 理事長 畠山重篤氏

畠山さんは、1943年に中国上海に生まれ、県立気仙沼水産高校を卒業後、家業の牡蠣養殖業を営んでおります。豊かな海を守るため「牡蠣の森を救う会」を結成し、「森は海の恋人」運動を続けてきました。

東日本大震災の津波で、畠山さんの牡蠣養殖場は壊滅的な被害を受けましたが、そうした状況にもかかわらず、畠山さんは養殖を再開することを決め、現在も再生・復興に取り組んでおります。牡蠣は、海水に含まれる植物プランクトンを食べて育ち、そして、プランクトンの量は、実は森の腐葉土から溶け出す“フルボ酸鉄”とよばれる鉄分の量に左右されると考えられております。

今回は、そのような海・川・森の密接な関係を鉄分の視点から、わかりやすく解説されました。さて、地球は成分比率からすると、海の惑星ではなく鉄の惑星であり、その環境下で発生したすべての生命体は、自ずと鉄分との深い関係を持ち備えております。鉄分は、植物・動物プランクトンの生育に欠かすことができない酸素を得るための触媒の役割を果たしております。これは、人の血液中のヘモグロビンの主要成分が鉄であることから理解できます。一方、現在の大気を作り上げたと考えられているシアノバクテリアの誕生による光合成により酸素が発生し、鉄の酸化が始まり、15億年かけて海から鉄分が消えました。それにより、現在の海は極端な貧血状態であり、鉄分は1リットルの海水に1ナノグラムしか含まれていないそうです。そのような環境下で、三陸沖が豊かな漁場である理由は、ロシアと中国の国境を流れるアムール川の鉄分が海流により運ばれ、結果として食物連鎖の底辺にあるバクテリアの大量発生を促進しているからだと分かったそうです。それは、気仙沼から始まった畠山さんの小さな試みが、いまや地球規模で実証されたことを意味しております。

日本には二級河川以上で35,000本の川があり、このようなメカニズムが解明された中で、縦割りの学問体

系を打破する意味で、京都大学において「森里海連環学」という学問分野が発祥しました。また、畠山さんは、昨年、国連からアジア代表のフォレストヒーローとして金メダルを授与されました。「水産高校出身の私が、東京大学や京都大学で講師を務めております。皆さんも様々なことに探究心を持ち、もっと勉強してください」と強く語っておりました。

今回、畠山さんの実行力やその根底にある探究心、そして深い勉強による多分野に渡る豊富な知識を散見し、私たちも固定観念から脱却し、「なぜ？」から始まる根本や真理を探求する姿勢を忘れず、日々の課業や事業活動に伴う地球環境・地域環境の保全の推進に務めていくことが大事であると思いました。

レポート：静岡ガス㈱ 静岡支社 山本 徹



環境法令基礎研修



■中部地域

騒音振動・土壌汚染・悪臭規制の概要について

平成24年11月30日(金) もくせい会館 第1会議室



瀧戸 航氏

環境法令基礎研修

県内東部・中部・西部地区の3会場で「平成24年度環境法令基礎研修」を開催しました。

- 東部地域 11月22日(木) 三島市社会福祉会館
- 西部地域 11月29日(木) 浜松市福祉交流センター
- 中部地域 11月30日(金) もくせい会館

今年は、化学物質の適正管理についての研修内容を、新たに加えました。「環境保全ハンドブック(2011年版)」を今年もテキストとして使用し、研修の随所で活用していただきました。

「環境法令基礎研修」は、本年度で8回目となります。参加者は、東部地域89名、西部地域47名、中部地域70名、合計206名でした。

東部地域は三島地区環境保全推進協議会との共催、中部地域は今年度から静岡市環境保全推進協力会との共催で実施し、開会挨拶は、三島地区環境保全推進協議会を代表して東レ(株)三島工場 環境保安課長 松田竜明様、静岡市環境保全推進協力会を代表して(株)J-オイルミルズ静岡工場 環境安全管理室長 伊藤雅淑様よりいただきました。

静岡市環境保全推進協力会様、ご協力ありがとうございました。

静岡県環境保全協会のホームページに、研修資料(PDF)をアップしましたのでご覧ください。

<http://www10.ocn.ne.jp/~saep/>

静岡県環境保全協会 事務局 若梅道乃



木津葉子氏



小笠原拓磨氏

研修項目（中部地域）

■ 環境関連法令の全般について

静岡県環境保全協会 前専務理事 環境省登録 環境カウンセラー 竹下昭二 氏

■ 水質汚濁防止法の概要と法改正等について

静岡県くらし・環境部 環境局 生活環境課 水質班 班長 原川勝好 氏

■ 大気汚染防止法の概要と留意点等について

静岡県くらし・環境部 環境局 生活環境課 大気班 主査 望月大介 氏

■ 化学物質の適正管理について

静岡県くらし・環境部 環境局 生活環境課 大気班 主査 太田良和弘 氏

■ 騒音振動・土壌汚染・悪臭規制の概要について

静岡市環境局環境創造部 環境保全課 主事 瀧戸 航 氏 (担当:騒音振動)

静岡市環境局環境創造部 環境保全課 薬剤師 木津葉子 氏 (担当:土壌汚染)

静岡市環境局環境創造部 環境保全課 主任主事 小笠原拓磨 氏 (担当:悪臭)

苦情処理の流れ



公害苦情の状況

1. 公害苦情の発生状況

平成23年度の公害苦情受付件数は次のとおりで、総数は226件と前年度から35件増加しました。公害苦情を種類別に見ると、騒音が100件（総数の44%）と最も多く、次いで大気汚染57件（同25%）、悪臭46件（同20%）、水質汚濁14件（同6%）でした。

【年度別公害苦情受付件数】

種類 \ 年度	18	19	20	21	22	23
大 気 汚 染	42	77	66	63	51	57
水 質 汚 濁	17	26	16	20	11	14
騒 音	81	59	84	72	77	100
振 動	4	5	10	4	7	9
土 壌 汚 染	0	0	0	2	0	0
地 盤 沈 下	0	0	0	0	0	0
悪 臭	50	45	42	49	45	46
そ の 他	0	0	0	0	0	0
計	194	212	218	210	191	226

2. 発生源別公害苦情受付件数

苦情受付件数を発生源別にみると、製造業が63件と最も多く、これは本市の地場産業である木材・木製品製造業等による苦情が多いためと考えられます。次いで、建設業が44件となっています。

【発生源別公害苦情受付件数】

発生源 \ 種類	大気汚染	水質汚濁	騒音	振動	土壌汚染	悪臭	計	比率%
農 業	2	0	0	0	0	5	7	3.1
林 業	0	0	0	0	0	0	0	0.0
漁 業	0	0	0	0	0	0	0	0.0
鉱 業	0	0	1	0	0	0	1	0.4
建 設 業	14	1	24	5	0	0	44	19.5
製 造 業	17	7	20	0	0	19	63	27.9
電気、ガス、熱供給、水道業	0	0	2	0	0	0	2	0.9
情 報 通 信 業	0	0	0	0	0	0	0	0
運 輸 業	0	0	2	0	0	0	2	0.9
卸 売 ・ 小 売 業	0	1	0	0	0	0	1	0.4
金 融 ・ 保 険 業	0	0	0	0	0	0	0	0
不 動 産 業	1	0	0	0	0	0	1	0.4
飲食店・宿泊業	0	0	14	0	0	3	17	7.5
医 療 ・ 福 祉	1	0	3	0	0	0	4	1.8
教育・学習支援業	0	0	3	0	0	0	3	1.3
複合サービス事業	0	0	3	0	0	2	5	2.2
サ ー ビ ス 業	7	2	13	0	0	3	25	11.1
公 務	0	1	1	3	0	0	5	2.2
分類不能の産業	1	0	2	0	0	5	8	3.5
そ の 他	12	0	10	1	0	8	31	13.7
不 明	2	2	2	0	0	1	7	3.1
合 計	57	14	100	9	0	46	226	99.9

※比率:単位未満四捨五入のため、合計と内訳の計が一致しない場合がある。

3. 用途地域別公害苦情受付件数

公害苦情件数を用途地域別に見ると、住居系地域が最多で92件（総数の40.7%）寄せられ、次いで準工業地域50件（同22.1%）となっています。これら苦情は、焼却炉からのばい煙や、

野焼き、また中小事業所からの機械音や作業音が中心であり、公害苦情発生の一因が住宅・工場の混在にあることを示しています。

【発生地域別公害苦情受付件数】

発生地域	種類	大気汚染	水質汚濁	騒音	振動	土壌汚染	悪臭	計	比率%
都市計画地域内		57	14	97	9	0	43	220	97.3
住居系地域		22	8	42	5	0	15	92	40.7
近隣商業地域		4	0	10	0	0	3	17	7.5
商業地域		4	0	15	0	0	2	21	9.3
準工業地域		14	2	18	4	0	12	50	22.1
工業地域		4	1	6	0	0	2	13	5.8
工業専用地域		0	0	0	0	0	0	0	0.0
調整地域等		9	3	6	0	0	9	27	11.9
都市計画区域外		0	0	3	0	0	3	6	2.7
		57	14	100	9	0	46	226	100.0

※比率:単位未満四捨五入のため、合計と内訳の計が一致しない場合がある。

事務局からのお知らせ

通常総会の開催について

通常総会の日程が決まりましたのでお知らせいたします。

1. 日時 平成 25 年 5 月 9 日 (木)
2. 会場 マナーハウス エリザベート
3. 時間 理事会 14 時 30 分
通常総会 15 時 00 分
講演会 15 時 40 分
意見交換会 17 時 10 分

清水区三保クロマツ植樹地

下草刈りの実施 【第2回】10月27日(土)

天候に恵まれたが肌寒い日だった。93 名の参加者が今回も一心に作業に従事してくれたので、予定より早目に終了できた。

作業前に蜂スプレーを散布し、見つけた蜂の巣は取り除いたのだが、残念ながら今回も 1 人蜂に刺された方がいた。念入りに隈なくかける必要があると感じた。

足長バチは植樹したばかりの若い葉に巣を作る傾向があるという。服装などにも注意を払い、ケガのないようにしながらこれからも植樹した松を見守っていきたい。



【平成25年3月31日現在会員数】 171事業所

随時会員を募集しております。
詳細は事務局までお問い合わせください。

【発行】 静岡市環境保全推進協力会
【事務局】 〒420-8602 静岡市葵区追手町5-1 静岡庁舎 環境局 環境創造部 環境保全課内
TEL054-221-9373 FAX054-221-1186
ホームページURL <http://www.shizuoka-kankyosuishin.jp/>